

# RECORDS

## ●日本生理学会 学術・研究委員会議事録

日 時：平成17年5月17日 10：30～12：00

場 所：仙台国際センター3階会議室6

出席者：青木 藩，今永一成，大森治紀，久保義弘（委員長），倉智嘉久，丹治 順，山田武範

欠席者：伊佐 正，小澤瀨司，小西真人

「1」今期のこれまでの活動報告を行った。

(1) 日本医学会総会（2007）の要請に応じて，大会テーマ，特別講演，シンポジウム等の学術プログラムの提案を行った。

(2) 群馬大会プログラム委員会に対し，英語での一般口演の実施計画を基本的に支持する意見を述べると共に，これまでの英語化路線の継続を依頼した。また，英語化に意味があるよう，国際化をさらに推進するために，外国人 travel award 等の具体的方策の実施を求めた。

(3) 群馬大会プログラム委員会の要請に応じて，シンポジウム等の提案を行った。生理研連シンポジウムについても，学術・研究委員会の意見を求められたので，提案を行った。

「2」他学会との合同開催等の可能性の検討について提案を行うことにした。

(1) 他学会との合同開催は，スケールファクターという点でも，新しい芽を育むという点でもメリットがある。2007年度の大阪大会は，医学会総会と開催の時期と場所が重なるため恰好のチャンスである。そこで，大阪大会での，薬理学会，解剖学会等の他

学会との合同開催の可能性について前向きに検討することを，常任幹事会で提案することになった。

(2) 合同大会とは別に，共通点が部分的にある他学会との，継続性を持った相互乗り入れの連携シンポジウムの企画の検討を，常任幹事会で提案することになった。

(3) 委員会終了後，常任幹事会で(1)(2)を提案したところ，受け入れられ，大阪大会プログラム委員会で検討していただくことになった。

(4) 次回の委員会時から，大阪大会プログラム委員会のメンバーに，学術研究委員会への参加を要請することにした。

「3」大会プログラム“Named Lecture”の継続について，討論した。

仙台大会ではじめて行った named lecture を，今後の大会においても継続してはどうかという意見が出された。群馬大会に対しては，仙台大会長の丹治委員より，趣旨説明等の連絡をしていただくことになった。今後の継続については，次回の委員会において議論を行うことにした。

（久保義弘）